

北海之光

4月号 北海道教区報

どのような道を歩むときにも主を知れ
主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる

箴言3章6節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴



耳を傾けるといふ召し

帯広聖公会牧師
有珠聖公会管理牧師
司祭 ペテロ 大町 信也

私たちのもとに日本聖公会
宣教協議会から発せられた
「清里コール」が届けられた
した。「北海の光」今月号に
はその本文と「清里コール」
が生まれるまでの過程につい
て記されていますので是非
併せてお読みください。「清
里コール」は、A四版裏表に
収まる分量ですので、さほど
ボリュームのあるものではあ
りません。そして「呼びかけ」
の中心となる部分は、実にシ
ンプルなものとなりました。
ここからまた歩きはじめよう
と、いのちに仕え、となりび
ととなるために、

一、神のみ声に耳を傾けよう
二、人々の声に耳を傾けよう
三、世界の声に耳を傾けよう
これが、三日間にわたり、
全国から一三二名が集まって
なされた協議会の呼びかけの
骨子です。後ほど出る報告集
は、何十ページかになると思

いますが、いさぎよいほどに
短いものです。「清里コール」
は、神のみ声に、人々の声に、
世界の声に「耳を傾けよう」
と呼びかけます。
叫び、うめく世界

「耳を傾けよう」と呼びか
ける前提は私たちが、うめき
と叫びの存在する世界に、生
きているという事です。世界
には戦争と暴力が絶える事な
く続いています。社会で小さ
くされている隣人が、様々な
差別や疎外に苦しんでいま
す。そして自然環境も深刻な
破壊に悲鳴をあげています。
「被造物がすべて今日にいた
るまで、共にうめき、共に産
みの苦しみを味わっているこ
とを、わたしたちは知ってい
ます。ローマ八・二二」とい
う現実の中に私たちは生きて
います。
イエス自ら、うめき給う
私たちは、ゲッセマネの園

とゴルゴタの丘でのイエス様
のお姿を想起したいと思いま
す。イエス様は、祈りの中で、
そして十字架上で、うめき叫
ばれた事を私たちは知ってい
ます。被造物のうめきは、イ
エス様によって担われ、引き
受けられているのです。
聴かれる神

「耳を傾ける」それは「傾
聴」と言い換えても良いので
すが、神様ご自身が「傾聴者」
である事に気づきたいと思っ
ます。旧約聖書「出エジプト
記」の中に、私たちがこのよ
うな神様の言葉を見出すこと
ができます。「わたしは、エ
ジプトにいる私の民の苦しみ
をつぶさに見、追いつける者
ゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞
き、その痛みを知った(出エ
ジプト三三・七)」神様は、解
放のみ業を行われる前提、動
機として「民の叫び声を聴き、
その痛みを知った」という事
が記されています。神様のみ
業の中心に、聴くという静か
な行動があったという事を知
る事ができます。神様は、解
放者であると同時に、傾聴者
であられたという事を、私た
ちは大切な気づきとしたいと

思います。それはイエス様に
おいても同様です。イエス様
の癒しの業は、オートメー
ションでインスタントなもの
ではありません。イエス様は、
出会う一人ひとりに丁寧に寄
り添い、その人の痛み・悲し
み・うめき・孤独を、漏らす
事なく聴き届け、深く心動か
されて癒しと解放、罪の赦し
をお与えになられた事に、心
を寄せたいと思います。

耳を傾ける者へと召される
「清里コール」は、私たち
の教会と信仰者の生き方全体
を、聴く姿勢へと整えて行こ
うという呼びかけです。それ
は、私たちに先立って傾聴者
である神様への信頼に基づい
ています。そして、耳を傾け
るといふ姿勢は決して消極的
な姿勢ではありません。コー
ルがその冒頭で「ここからま
た、歩き始めよう」と呼びか
けるように、今いる所に安全
な所に留まり続ける事ではな
く、今ある所から身を動かし
て歩き出すという応答を、必
然的に教会と私たちに求めて
いるという事でもあります。

―心の窓をひらく―

福音と私(二七九)

―今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか―

旭川聖マルコ信徒

ルツ 檻山 るり



【私の好きな聖句】

「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」

(伝道の書二二：一)

私は一九五二年五月の母の日に京都の桃山基督教会牧師高地時夫の三女として生まれました。私のきょうだい五人共、この教会の信徒の方で助産師のUさんのお世話になり牧師館で生まれました。幼な

線の二駅がある便利な所になりました。駅を降りて坂道を下ると大きな商店街があり賑わっていました。また脇道に外れると坂本龍馬で有名な寺田屋などもあり、酒所伏見の酒蔵があちこちにありました。さて駅から反対の方、坂の上の方を見ると大きな朱い鳥居が目飛び込んで来ます。道路を挟んで建っている右側は民家が並んでいます。左側は低い石垣の上に白い土壁が続いていました。鳥居から少し坂道を上ると、白い壁の中に「桃山基督教会」の文字と緑色にペンキで塗られた門が目に入ります。白壁はさらに続いていて、お隣の御香宮神社全体が白壁で囲われていました。これはきつと逆で神社の白壁が教会を超えて

からさらに国道を超えて上って行くと、だんだん家並が途切れて周りは森、足下は玉砂利になり、明治天皇、昭憲皇太后の御陵が開けて来ます。ここからは見えませんが少し離れた岡の上に当時コンクリートで再建された伏見桃山城がありました。武家屋敷の名残りか桃山町鍋島とか桃山町本多上野とかいう町名がた

で泳ぐのも楽しかったけれど、普段家ではしないお手伝いがここでは楽しくて何でだろうと思っていました。このキャンプ場の北の境界には鶴川という小さな川が流れていました。山からびわ湖に流れ込む川で、もの凄く冷たくて透明でした。小アユの群れがよく見られました。キャンプが終わると来年のキャンプが楽しみにになりました。夏休みが終わりまた、毎日白壁の神社と隣り合っていました。神社があるのが不思議で、煉瓦造りの教会に憧れていた私はある日母に「なんでお寺みたいな教会なの？」と聞きました。母は「この辺りは風致地区なんや。雰囲気違う建物は建てられへんの」と答えました。風致地区ということが漠然と分かりました。そして母たちはそんなことは全く気にしていない感じでした。

私が高校生の頃、按手を受けました。その頃家に帰ると部屋の片隅に多分教区のメッセージ「あなたの若き日にあなたの造り主を覚えよ」という言葉が貼ってありました。母が「若きというのは若いという

いうことではなくて、近いという意味だよ。」と言いました。あれから何十年経ったことでしょう。私は今は自然豊かな旭川市郊外で暮らしていて、旭川聖マルコ教会にお世話になっていきます。教会の話になっていきます。教会の方々の優しさに甘え、京都で過ごした時間をはるかに超えて旭川に居ることになりました。なかなか教会員らしいことも京都時代から引き続き出さないでいます。遠い日の若き日は取り戻せませんが、これからのいつか若き日にそうなればどんなに良いかと思えます。若き日に造り主を覚えるということがどういふことなのか。この重たい課題に向き合わなければなりません。今はもういない両親の姿を思い起こしながら…。



常置委員会報告
第五回 三月二二日

《協議事項》

一、教区会追加議案として書面での回答を求めた教区審判廷審判員の選出について可決

を確認した。
二、聖公会北海道教区より、聖公会福祉会に対し六百万円の貸付を行うことを承認した。
三、主教の休暇取得について承認した。

四、函館聖ヨハネ教会と、帯広聖公会の共催で行われる予定の講演会「寄り添うということ」一人一人の尊厳を大切にしていこうのために、講師…半田ウイリアムズ郁子司祭」に関する宣教活動協力資金の

申請について承認した。
五、「ハンセン病市民学会全国交流集会 in 北海道」開催の構成団体となる事について承認し、出席者に対し交通費補助を行うこととした。
六、「出会いと交わりの日」への参加を東北教区にもお誘いすることとした。

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

五月二二日(水)

午前一〇時三〇分
於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司 祭 岩 田 慶次郎

伝道師 山 田 致 人
一九〇二年五月九日

伝道師 伊勢田 清 美
一九三七年五月九日

伝道師 ペネロピー アン
フィッシュヤ

司 祭 三 澤 康 二
一九八九年五月一日

司 祭 佐 藤 信 康
二〇二二年五月一日

伝道師 エデイス ルイーザ
二〇〇九年五月一日

司 祭 伊 東 松 太 郎
一九五二年五月一日

司 祭 與 賀 田 千 秋
一九九七年五月二八日

司 祭 上 平 仁 志
一九三七年五月二日

司 祭 二〇二三年五月三十一日



主教室から

三月一四日、敬愛する司祭ステパノ齊藤昭一先生が逝去されました。九七歳のご生涯でした。ご葬儀は齊藤先生が二〇年お通いになった仙台基督教会で執り行われ、東北教区主教長谷川清純師が説教者として仙台での齊藤先生のご様子を語りくださり、同教会牧師の八木正言司祭が葬儀のお手配をすべて取り仕切ってくださいました。大町司祭が司式者団に加わってください、神様のみ許にお送りすることができました。函館からも信徒の皆さんが駆けつけてくださいました。感謝でした。遠方であったが故に、たくさんの方々が北海道教区の方々が祈っていただくことと思

ます。必ずその祈りは主に、齊藤先生に届いています。
齊藤昭一先生は五〇年という長い年月、北海道教区にご奉職くださいました。一九五三年の平取聖公会に始まり、室蘭、網走、小樽、旭川、釧路、厚岸の各教会勤務を経て定年退職を迎えられます。その後寺本睦夫司祭管理のもと釧路聖パウロ教会・厚岸聖オーガスチン教会の嘱託、函館聖ヨハネ教会・今金インマヌエル教会嘱託として二〇〇二年三月末まで各地での宣教牧会に勤しまれました。司祭按手は一九五五年。今年七月で司祭按手六九年です。

齊藤先生は、信仰の情熱を詩に託され、多くの方々に毎号欠かさずご自分の詩が掲載されている仙台基督教会月報を郵送してくださ

ボランティア募集中

日本聖公会京都教区

「日本聖公会京都教区能登半島地震対策室活動ブログ」が開始され、活動の様子がアップされています。皆様、ご覧ください。
また、ボランティア募集も開始しました。申込書は、各教区から教役者に届けられていることと思います。各自、教会の教役者を通してお申込みください。
どうぞよろしく願っています。

義 マチ・グレス 笹森 田鶴



盛岡聖公会

盛岡聖公会は宣教開始一六六年を迎えています。現在堅信受領者は六〇名です。BSA、婦人会、日曜学校、聖歌隊・オルガニストグループなどありますが、コロナ禍でここ数年は思うような活動ができませんでした。最近少しずつ活動を広げています。盛岡聖公会の小史に「じゅびらあて」があります。「歎ばしき声をあげよ」を意味するラテン語ですが、詩編第一〇〇編からの引用で盛岡聖公会の信仰の柱となっているように思います。聖堂は昭和四年一二月に聖別され九五年になりまます。昨年屋根と外壁、窓枠の大規模な修繕を施し、正面の白さが蘇りました。



宣教一五〇年実行委員会報告 (13)

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。いよいよ一五〇年の年も四月に入り、一年の三分の一が過ぎ去ろうとしています。

黙想会も二九日(月)に釧路で第二回目が行われます。まだ空きがありますので、ぜひご参加ください。第三回は苦小牧で六月一日(土)に開かれます。ぜひお申し込みください。また、第四回は留萌で九月七日(土)に、第五回は一〇月五日(土)に網走で行われる予定です。

次に「連続講座『アイヌとキリスト教』」のお知らせです。北海道教区はCMSによる宣教の初めに「アイヌ伝道」に積極的に取り組み、各地にアイヌ学校を建てたり、祈祷書などのアイヌ語への翻訳を行ったりして

行ったりして来ました。しかし今、教区にそういった動きはなく、

わたしたちもかつての活動やその評価を今一度見つめなおそうにも、なかなか知る機会が与えられませんでした。そこで宣教一五〇年の企画の一つとして、「北海道教区のアイヌ宣教について知る」この連続講座を開講いたします。今年は今五回で、第一回が五月一八日(土)、第二回が六月七日(金)、第三回が七月二三日(火)、第四回が九月九日(月)、第五回が一〇月一日(金)に行われます。詳しくは各教会にご案内を送りましたので、ぜひご参加ください。講演そのものは札幌で行われますが、オンラインでの参加も可能です。また、宣教一五〇年記念礼拝は七月一五日(月)です。参加の方は早めの宿の確保をお願いいたします。今後も多く企画をお知らせしていきます。お知らせを楽しみにお待ちください。ではまた来月。

聖職者の召命を聴く会

聖職養成委員会 神学生養成委員会

〇〇先生は、いったい、いつどんな風に、神様からの呼びかけを受けたのだろうか? その時、どんな葛藤や迷いがあったのだろうか? 身近な聖職者の召命の出来事を、断片的に聞く事があっても、じっくりとお聴きするという事は、実は少なかったのではないのでしょうか。

この度、教区の聖職養成委員会と神学生養成委員会の協働で「聖職者の召命を聴く会」を企画しました。今年は二回を予定していますが、最終的には全聖職の皆さんから、お話を聴き取る予定です。

第一回は、大友正幸司祭様にお話しいただきます。五月二四日(金)の午後六時半より札幌キリスト教会を会場に、対面とズーム配信との併用で行います。

神様は、世代を超えてお呼びかけにられますが、是非、若い世代の方々にも聴いて欲しいのです。奮ってご参加ください。

ユースキャンピング大沼

日時: 八月九日(金) 一、二日(月・祝)

参加対象: 小学五年生 二、五歳前後

一日の主日礼拝は函館聖ヨハネ教会と今金インマヌエル教会、午前と午後で二つの教会の礼拝に出席予定です。

その他、主教アワー、函館聖ヨハネ教会紹介プログラム、大沼や近郊での自然体験プログラムなどを予定しています。

参加対象年齢のみなさん、ぜひご参加ください!

東北教区の青年も参加予定です!



お詫び

4月号掲載の教区役員一覧表の人権問題担当者は、未定でした。謹んでお詫び申し上げます。訂正致します。

二〇二三年日本聖公会 宣教協議会からの呼びかけ

クララ 高橋 愛

二〇二三年一月一〇日から一三日まで山梨県清里・清泉寮で開催された宣教協議会から「二〇二三年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」が作成され、各教会・信徒のみなさまに届けられる準備がなされています。

この「呼びかけ」は当初、参加者が協議会で考えたこと、感じた思いや気づきなどとともにそれぞれの場所に持ち帰り、教区や教会、委員会などで継続的に取り組んでいく「清里からの呼びかけ」として発出される予定でした。しかし、四日間という時間の中で参加者それぞれが感じたたくさんさんの思いを最終日の限られた時間の中で一つの呼びかけにまとめることはとても難しく、協議会中に「呼びかけ文」を完成することは断念されました。

宣教協議会終了後、協議会中に話し合われた内容や意見

をドラフトコミッティのみなさんが改めて確認し、再検討してこの「呼びかけ」が作成されました。そしてその後、オンラインで開催された宣教協議会参加者への報告会を経て「二〇二三年日本聖公会宣

教協議会からの呼びかけ」が完成しました。この「呼びかけ」は、一、神のみ声に耳を傾けよう二、人々の声に耳を傾けよう三、世界の声に耳を傾けようの三項目があり、それぞれの

項目の例案も提示されています。呼びかけ文と細目紹介は日本聖公会宣教協議会ウェブサイト上で公開されており、是非一度お読みください。宣教協議会もこの「呼びかけ」もこれで終わりではあ

りません。これからそれぞれの教会や委員会の場で様々な声に耳を傾け共に歩んでいくための指針として用いられますよう願っております。

2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ 細目紹介

1. 神のみ声に耳を傾けよう <祈り・み言葉・礼拝>
 - ・イエスの弟子となる…わたしに与えられた賜物はなに？
 - ・進むべき道を問い続ける…聖書を読み、神のみ心を祈り求めよう
 - ・変化を恐れない…宣教協働区、新しい祈り書、生き生きとした「今」の礼拝！
2. 人々の声に耳を傾けよう <教会・地域・となりびと>
 - ・セーフチャーチにしよう…開かれた教会、すべての人が安心できる居場所に
 - ・小さな声を大切にしよう…多彩性を輝かせ、ともに生きる
 - ・地域の必要に応える…関連施設とも協働し、課題に取り組もう
3. 世界の声に耳を傾けよう <神が創られた自然・世界・社会>
 - ・地球のいのちに仕える…教会ができるSDGsは？
 - ・平和をつくりだそう…いのちを脅かすすべての暴力に「NO」！
 - ・世界のうめきや叫びに向き合おう…アングリカンコミュニケーション世界の聖公会とつながりながら

「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。私を離れては、あなたがたは何もできないからである」 (ヨハネによる福音書 15章5節)

2024年2月2日
2023年日本聖公会宣教協議会



※ 宣教協議会の報告書と分かち合われた多くの「声」は、日本聖公会宣教協議会ウェブサイト・ブログで公開されています、併せてご覧ください
—URL: <https://2023-missionconference-nskk.blogspot.com/>

※ 協議会もこの呼びかけ文も「これで終わり」ではありません。わたしたちが日々の教会生活の中で、できることに取り組んでゆくかたちで清里の物語は続いてゆきます。その物語の続きを、どうかともに歩み、ひき続き様々な「声」をかわしてください。



▽旭川聖マルコ教会

三月一日世界祈祷日礼拝がバプテスト教会で実施、来年はマルコ教会が担当教会です。

九日保育園の卒園式が教会の礼拝堂で保護者の皆さんと共に行われました。

二四日から聖週です。能登半島地震の被災者の為、世界平和のため、そして聖週を通して霊的な養いが与えられますように祈りました。

三月三十一日、長い大斎節の克己期間を終えイースターを迎えました。祝会では、持ち寄り婦人会の料理に舌鼓、手品やフルート、ギター演奏を楽しみ、皆でイースターを祝いました。主に感謝!

▽岩見沢聖十字教会

別れの季節の三月。四日、

礼拝堂で笹森田鶴主教による年長の洗足式。一四日、卒園式では永谷亮司祭が巣立って行く園児に温かな言葉を贈りました。教会からは園児と担任に花一輪が手渡されました。

三十一日、横山明光司祭司式による復活日礼拝。園の先生も出席されました。教会とのパイプ役を担っていた小野佳代子先生が退職の挨拶。長い間ありがとうございました。その後、久しぶりの愛餐会。楽しい交わりの一時でした。

四月二日の主日礼拝も横山司祭のご奉仕です。感謝。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

「啓蟄」。歳時記によれば土中で冬籠りしてた生き物が目覚める頃のこと。人間も同様、気分がウキウキしてきます。

一七日の大斎節第五主日。礼拝後、皆で恒例の「棕櫚の十字架」作りを精を出しました。「棕櫚の十字架」は、言うまでもなくキリストのエルサレム入城を記念して掲げられた十字架。毎年の行事ですが、「ここからどうだったか?

苦闘、約四〇分。一〇〇本以上の棕櫚の十字架が完成しました。達成感に溢れてお茶会に。また吉野司祭のギター演奏で歌と祈り&テゼの黙想会も行われ充実の一日となりました。

翌週は「棕櫚の日曜日」。復活前主日の礼拝が行われ、皆で作った棕櫚の十字架がそれぞれの手元に。礼拝後にはテゼの黙想会が行われ、春の兆しの中、まさに啓蟄のよう。主の恵みに深く感謝します。

さて三十一日はいよいよ復活祭。世界平和が来ますように。

▽小樽聖公会

三月三日、阿部芳克司祭の司式説教で聖餐式をおささげしました。一〇日、一七日は信徒によるみ言葉の礼拝。

二四日、主教巡回日。聖週を迎え、聖木曜日礼拝は松井司祭の司式説教により聖餐式、三十一日のイースターは午後二時半より笹森主教の司式説教で聖餐式をおささげしました。

たくさんの方々のみなさまのお支えで聖餐式をおささげできること本当に感謝で

す。池田司祭はリハビリに励まれています。一日も早い回復をお祈りしています。

▽帯広聖公会

枝兄が中心となり、教会のホームページを整備。毎月第一主日礼拝の牧師の説教が視聴可能となりました。この説教をもとに、第三主日礼拝後、平均八人ほどの「み言葉の分かち合い」を行っています。

三月一日の世界祈祷日、市内各教会からメノナイト教会に集い、共にパレスチナの平和を祈りました。二四日から聖週、聖木曜日夕「過ぎ越しの食事会」、受苦日は「十字架の道行き」を共にしました。

復活日、久しぶりの祝会、楽器演奏や合唱などで楽しいひと時を持ちました。大町司祭は礼拝に参加出来なかった信徒宅を訪問し、主のご復活の喜びを共にしておられる。

▽稚内聖公会(伝道所)

この冬の稚内は暴風雪の日が多かったものの積雪量はそれほどでもなく、雪解けも早かったようです。風が強いゆえの寒さの中、三月一四日、笹森主教、沼原さんがご巡回に来てくださいました。三人

での礼拝とその後の交わりで、豊かな時を過ごされたとのこと。感謝いたします。

これからの季節は車での往来が可能。いろいろなものを持参し、また、ひと冬のゴミを回収できます。最北の小さな伝道所にも復活のイエス様の恵みが豊かに与えられていることを信じて。

▽苫小牧聖ルカ教会

ようやく春の兆しが見えてきました。気持ちも何か溶けてゆくような感じになりました。二月から第二週は一四時から聖餐式になりましたが、まだ出席者は少ない状況です。松井先生は四月から函館聖ヨハネ教会の協働司祭にもなり、ますます信徒の力が必要になります。一六日、幼稚園で第六五回卒園式が行われました。小貫園長はその後入院して、無事退院され新年度に備えています。イースターは幼稚園の職員も含めて多数出席され賑やかで、礼拝後はひさびさに集会所で軽い食事をとりました。今年度から宣教に幼稚園との具体的な宣教の実践が掲げられています。月一回、子どもの礼拝を

することができないかというものです。教会もさまざま意味で変化をしていかなければなりませんね。お祈りください。

▽札幌キリスト教会

北大のクルミの木を縄張りとするエゾリスも顔を出し、春を迎えます。イースターは一三六名が出席し礼拝と祝会でお祝いしました。

三日、仙台基督教会との説教交換が行われヨハネ八木正言司祭をお迎えして聖餐式をお捧げしました。一七日、大斎節プログラムとしてNHK「こころの時代」長崎の折り水がめを運ぶ人々に導かれて」を鑑賞。金曜ランチは二二日で終了。四月一七日(水)から北大留学生を対象に「留学生サポート」として再始動します。二四日、トマス鏡谷光司さん(八四歳)ご逝去。霊の平安をお祈りいたします。

▽札幌聖ミカエル教会

八日に大阪のプール学院高校が修学旅行で訪問、礼拝堂に学生たちの美しい賛美が響きわたりました。午後からは青年寮からの信徒清水洋三先

生の通夜、翌日に葬送式が執り行われました。主による平安をお祈り致します。一五日に三〇名の幼稚園の子どもたちが元気に巣立ちました。新しい場所での日々が祝福されますように。二四日は、夕方からエンジェルウイングズ(中高生会)が行われ、夕の礼拝を共にした後、鍋で食卓を囲み、それぞれの近況を語り合いました。三一日は、笹森主教をお迎えしての復活日礼拝。幼児洗礼が行われ、主のご復活の喜びを分かち合う一日となりました。

主の復活ハレルヤ!

▽新札幌聖ニコラス教会

三月三十一日という早い時期でしたが、今年も実り多いイースターを迎えることができました。今年に入って一番多くの参加者を迎え、午後には食事を囲んで楽しい交わりの時間を持つこともできました。

定住の司祭が不在となつてから一年近くが経とうとしています。手探りで進めてきた一年でしたが、先生たちがニコラスチームとしてお支えくださり、感謝の一年でもあり

ました。また四月からは、阿部芳克司祭を嘱託司祭としてニコラスにお迎えできるという大きな喜びの春ともなりました。

新たな気持ちで、この春を迎え、平安と喜び、そして感謝にあふれた教会になるよう、知恵を出し合い、工夫して進んで行きたいと思えます。

▽平取聖公会

今年のイースター礼拝は三月三十一日の午後でした。祭壇にはアマリリスの赤い花が供えられました。内海司祭は当教会で丸一四年牧会していただいています。熱心で時にユーモアのある説教は魅力的です。礼拝後は婦人会が用意してくださった海苔巻でイースターをお祝いし、コロナ感染の心配のない楽しいひと時を過ごしました。

平取町には二五年前からトマト栽培と畜産農家に中国人実習生が働きに来てくださっています。この三月から病院と特養ホームにインドネシアから四人の女性が来てくださり、内二名がカトリック信者で礼拝に出席されています。

▽函館聖ヨハネ教会

三月一四日私たちの教会でご奉仕された齊藤昭一司祭のご逝去、仙台基督教会でのご葬儀に参列、魂の平安をお祈りします。

教会を囲む草木たちは、ご近所さんの協力で美しく手入れされ、笑みを浮かべて春を待っています。棕櫚の葉で十字架を作り、翌日には劇団ヨハネによる朗読劇、信徒一同で主イエスの受難を再現しました。管区事務所総主事の矢萩新一司祭が、司式してくださった復活祭では、教会の小さい人たちが作ったイースターエッグとカードが小さな手によって一人ひとりに配られました。

▽有珠聖公会

三月二四日、復活前主日。聖餐式にてしゅろの十字架をいただきました。礼拝後、堅信受領者総会が開かれ、春のジンギスカンパーティー、一〇回目となるクリスマスマスコンサートなど年間行事の他に、オルガンの補修計画実行の年とすることを決めました。また、信徒全員が賜物を

生かして重荷を負い合つて奉仕するという教会の姿勢を皆で確認しました。四月から、毎週土曜日の午前九時から午後四時までのバチラー夫妻記念室の開館が始まっています。

▽留萌キリスト教会

マイナス気温の日々でしたが急に雪が融けて復活日を迎えました。名寄の藤井さん夫妻と年始の挨拶を交わし、長い坂道を登って池田さんが無事に到着し、ゲストを五名ほどお迎えしてイースターの礼拝を二三名で祝うことが出来ました。コロナに阻まれていた交わりを再開した喜びが、どの顔にも浮かんでいました。

祝会后に婦人会の臨時総会を行い、一五〇年記念礼拝出席者への補助金を出すことを決定しました。七月まで体調維持に努めたいです。『ピリカ・レラ・モシリ』を歌っています。

▽紋別聖マリヤ教会

三月に入り寒い日が多く流水が遅くまで居ましたが、少しずつ春めいて来ました。三月一〇日主教巡回の日、幼稚

園の先生方も多数出席されにぎやかな聖餐式になりました。幼稚園では一日卒園式が行われ、一三人の園児を送り出しました。三十一日はイースター礼拝、越山司祭の退職祝。深川より夫人もお見えになり、長い司祭生活を勤めあげ本当にごくろう様でした。紋別は二年間でしたが、お世話になり楽しかったです。ありがとうございました。主に感謝です。

▽新冠聖フランシス教会

教会の敷地内には三月末にはすでに雪はなく、水道の元栓を落とす心配もなくなりましたが、風は冷たく春はもう少し先のようにです。暖かくなったら自宅療養中の方々と一緒に聖餐の恵みを受けられるようにと、心待ちしております。

イースターでは、各自持ち寄りで愛餐会を行いました。テーブル一杯のご馳走と会話に楽しい一時と、主のご復活の喜びとお祝いを致しました。この後司祭様は、本日の聖餐式で祝別された聖品を携えて礼拝に出席出来なかった方々を訪問されました。主に

感謝。

▽聖マーガレット教会

三日、横山司祭の司式説教、御家族四名で来会。感謝です。一七日のみ言葉の礼拝に、石塚尚子姉が証をする。マーガレット館での思い出等お話しされた。礼拝後、棕櫚の十字架作りを数名で行う。二二日、札幌交響楽団メンバーによる弦楽四重奏のコンサートが急遽開かれた。福祉施設の方々と一緒に楽しむ。二三日逝去された三村郁子姉の霊の平安を祈ります。イースターは、四三名の出席で礼拝堂がいっぱいになり、また、祝会も電子ピアノとフルート、聖歌隊の歌等、楽しい時を過ごしました。

▽網走聖ペテロ教会

大斎家庭集会を二二日ファミリーホームのあで七名で行い『祈りと黙想ー人間の本质の現れー』を黙想致しました。一七日は主教巡回礼拝。「栄光は重み」との深いお取次ぎに心が震えました。大人も子どももたくさんいて賑やかで感謝でした。月一の学び会の分かち合いも有意義なものとなっています。二四日棕

櫚の十字架をいただき、受苦日には十字架の道行を黙想し、三十一日には一七名で主のご復活をお祝い致しました。『ペリカ・レラ・モシリ』練習も進んでいます。

▽北見聖ヤコブ教会

YMCAの卒園礼拝が三月一六日午前であり、午後には教会でアンデレ椿田貞雄さんの逝去二〇年記念式が執り行われました。翌日一七日には主教巡回礼拝があり、御言葉の恵みと温かなお交わりの恵みを心より感謝致しました。

▽室蘭聖マタイ教会

今年は積雪が少なく助かりました。柔らかい陽光に待ち遠しかった春を感じております。一〇日大斎節第四日松井司祭来会、礼拝聖餐に与る。二三日復活前主日松井司祭来会、教区事務所の高橋愛さんが手作りしてくださった棕櫚の十字架を頂く。心より感謝。

▽深川聖三一教会

三月六日保育園の卒園礼拝、チャプレン制作の「光の学校の卒業証」を六名に授与す。一二日道北分区牧師会が深川で開かれる。一六日保育園の第五一回卒園式、六名。

一七日下澤管理司祭来訪日、説教下澤司祭、司式越山司祭、補式甲斐司祭。婦人会でLGBTQについて下澤司祭より説明をいただき啓蒙される。越山司祭より教会の現場の取り組みについて教示される。二九日受苦日礼拝、六名出席。婦人会作業奉仕。三十一日大福の復活祭。祝会では十二使徒の肖像絵の席に出席者着席、よみがえりの主イエスをお迎える。感謝。

▽今金インマヌエル教会

三月に入り、昼間はストーブも必要ないほど暖かく、夜になると寒く、朝起きるとドカ雪が積もっている。雪は少な目なのに雪解けは遅く感じます。でも今金男爵の種芋の芽出しをするハウスや米の苗を作るハウスにビニールが掛かりました。農作業開始です。一〇日上平司祭と五名、二三日大町司祭と二名で礼拝を守ることが出来ました。遠方より来て頂き、感謝致します。

▽室蘭聖マタイ教会

今年積雪が少なく助かりました。柔らかい陽光に待ち遠しかった春を感じております。一〇日大斎節第四日松井司祭来会、礼拝聖餐に与る。二三日復活前主日松井司祭来会、教区事務所の高橋愛さんが手作りしてくださった棕櫚の十字架を頂く。心より感謝。

▽深川聖三一教会

三月六日保育園の卒園礼拝、チャプレン制作の「光の学校の卒業証」を六名に授与す。一二日道北分区牧師会が深川で開かれる。一六日保育園の第五一回卒園式、六名。

午後二時より行う予定になっております。

▽今金インマヌエル教会

三月に入り、昼間はストーブも必要ないほど暖かく、夜になると寒く、朝起きるとドカ雪が積もっている。雪は少な目なのに雪解けは遅く感じます。でも今金男爵の種芋の芽出しをするハウスや米の苗を作るハウスにビニールが掛かりました。農作業開始です。一〇日上平司祭と五名、二三日大町司祭と二名で礼拝を守ることが出来ました。遠方より来て頂き、感謝致します。

▽室蘭聖マタイ教会

今年積雪が少なく助かりました。柔らかい陽光に待ち遠しかった春を感じております。一〇日大斎節第四日松井司祭来会、礼拝聖餐に与る。二三日復活前主日松井司祭来会、教区事務所の高橋愛さんが手作りしてくださった棕櫚の十字架を頂く。心より感謝。

▽深川聖三一教会

三月六日保育園の卒園礼拝、チャプレン制作の「光の学校の卒業証」を六名に授与す。一二日道北分区牧師会が深川で開かれる。一六日保育園の第五一回卒園式、六名。

